Barracuda Web Application Firewallが WAF市場において6年連続シェアNo.1

2013年11月6日（水） 東京発
ーセキュリティとストレージソリューションのリーディングプロバイダであるBarracuda Networks
Inc.（本社：米国カリフォルニア州キャンベル）の日本法人である、バラクーダネットワークスジャパン株式会社（東京都品川区、執行役員社長：林田
直樹、以下バラクーダネットワークス）は本日、Barracuda Web Application Firewall（以下Barracuda
WAF）が富士キメラ総研の、「2013ネットワークセキュリティビジネス調査総覧<上巻：市場編>」において、Webアプリケーションファイアウォール・マーケットシェアにおいて6年連続でNo.1を獲得したことを発表しました。

Webアプリケーションファイアウォール市場は、2000年代後半にセキュリティ意識の高いユーザ企業を中心に導入が広がり、「SQLインジェクション」や「クロスサイトスクリプティング」など、Webアプリケーションの脆弱性を利用した外部からの攻撃や最近では「パスワードリスト攻撃」の増加に伴い、Webアプリケーションの攻撃対策として大手ECサイトや金融・公共機関などで導入が進みました。昨今では、Webアプリケーションに関連した攻撃は、複雑化、巧妙化し、標的型攻撃による情報漏えいの発覚も相次いだことから、ユーザのWAFに対する認知度が高まってきたことで、大企業のみならず、xSPやエンタープライズの中堅企業への需要も広がりつつあります。

Barracuda
WAFは、チューニング不要であるブラックリスト型を採用することで、最新シグネチャにより、クロスサイトスクリプティングやSQLインジェクションに対する防御対策が可能なため、容易かつ迅速に導入でき、また低価格帯も評価されて順調な導入が進んでいます。

【バラクーダネットワークスジャパン株式会社 執行役員社長 林田直樹のコメント】
「バラクーダネットワークスでは、ローエンドからハイエンドまで計5モデルを展開することで、幅広い業種でBarracuda
WAFをご利用頂いております。ブラックリスト型を採用することで、チューニングが容易で、短時間で導入できる点から、すぐさまWebアプリケーションセキュリティ対策が必要なお客様だけでなく、これから対策に着手しようとしている両タイプのユーザ様から評価され、エンタープライズユーザへの導入が堅調に進み、更に教育、自治体からの需要も高まっております。」

【Barracuda Web Application Firewallについて】
Barracuda Web Application
Firewallは、SQLインジェクションやクロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、セッション改ざんといったWebアプリケーションを狙う攻撃からシステムを保護するソリューションです。プロキシとして動作し、HTTP/HTTPSのトラフィックを精査してWebアプリケーションの脆弱性を突こうとする攻撃を検出します。製品提供形態は、物理アプライアンス、さらにハイパーバイザ上で動作する仮想アプライアンス版で提供されています。

【バラクーダネットワークスについて】
バラクーダネットワークスは、世界中で15万以上の組織に対して、ユーザ、アプリケーション、そしてデータの安全を守っています。強力かつ操作性に優れたITソリューションをお求めやすい

価格にて提供しており、世界中から頼れるリーダとして評価されるまでに至っています。バラクーダネットワークスの顧客中心のビジネスモデルは、セキュリティとストレージ分野における付加価値の高いサブスクリプションベースのITソリューションの提供にフォーカスしています。詳細は http://www.barracuda.co.jp をご覧下さい。

* 本リリースに記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】
バラクーダネットワークスジャパン株式会社
〒141-0031
東京都品川区西五反田8-3-16 西五反田8丁目ビル5階
Tel：03-5436-6235
Fax：03-5436-5128
担当：木村
Email：jpinfo@barracuda.com
URL：http://www.barracuda.co.jp/

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com